

我が社の社是、理念は〇〇です ～仕事は苦役？労働？～

Vol. **28**
Medical life advice

たばたメンタルクリニック
院長 田畑 修

長時間勤務、残業問題など昨今その改善策が強く叫ばれ、政府からも「働き方改革」として様々な施策が講じられようとしています。

そしてその問題の諸悪の根源のように一部マスコミでとりあげられた通称「鬼十則」という社是があります。ある有名企業の社長の訓示だったといわれています。(現在においては語弊あるいは表現が不適切との指摘もあると思いますが) ネット検索をひも解くと以下の通り。

- ① 仕事は自ら創るべきで、与えられるべきでない。
- ② 仕事とは、先手先手と働き掛けていくことで、受け身でやるものではない。
- ③ 大きな仕事と取り組み、小さな仕事はおのれを小さくする。
- ④ 難しい仕事を狙え、そしてこれを成し遂げるところに進歩がある。
- ⑤ 取り組んだら放すな、殺されても放すな、目的完遂までは……。
- ⑥ 周囲を引きずり回せ、引きずるのと引きずられるのとでは、永い間に天地のひらきができる。
- ⑦ 計画を持て、長期の計画を持っていれば、忍耐と工夫と、そして正しい努力と希望が生まれる。
- ⑧ 自信を持て、自信がないから君の仕事には、迫力も粘りも、そして厚みすらがない。
- ⑨ 頭は常に全回転、八方に気を配って、一分の隙もあってはならぬ、サービスとはそのようなものだ。
- ⑩ 摩擦を怖れるな、摩擦は進歩の母、積極の肥料だ、でないと君は卑屈未練になる。

高度経済成長期(小生のような「巨人の星」や「アタックNo1」世代)の時代にあってはさほど驚くものではなかったと思いますが、時が経ち「プレミアムフライデー」が推奨される今

日では隔世の感は否めません。言語道断、時代錯誤として失笑されてしまいそうです。「ゆとり」をもって個人に過度な負担がいかぬように「ワークシェア」できるものは工夫をしていく、ひいては「同一労働、同一賃金(同一時間)」へと。時代は働く者を多角的に尊重、守っていくトレンドであること、健康や生き方を阻害するような働き方については法律や行政が一定の抑制をかけるのは当然かもしれません。

ところが一方、小生の知るところでは、趣味も仕事だという「中毒症」のような極端な人はいなくなりましたが、そもそも素直に仕事が好きである、つらいが頑張る人が少なからずいます。個人的にはつらいけれどそれが他者のためになる、ひいては巡り巡って自分のためになるかもしれない、どこかでひとと繋がっているかもしれないというのであれば、ある意味、奥義、真髄かもしれません。

「仕事は何のためにするのか？」多様な捉え方や取り組み方があるかと思います。法律にも明記されているとおり仕事は「労働」として括られてその対価として「賃金」をもらうこととなっています。極めて常識であり異論はないのですが西洋的な「労働＝苦役」ということを連想してしまい幾ばくかの違和感を覚えます。日本人だけに特殊なのかもしれませんが伝承された民謡、祭りには仕事にまつわるテーマが多いようです。

悪の権化のような鬼十則であっても、その一部エッセンス(考え方)を個々人がそれぞれ程よく取り入れられたときに「仕事は〇△□◇」となるのかもしれません。もちろん心身を壊すような無理なことは駄目ですがストレスが全く無くなれば良し、というものでもないと思います。

田畑 修
たばたメンタルクリニック
〒890-0056 鹿児島市下荒田3-17-32
TEL:099-250-5682 FAX:099-251-1521
<http://tabatamc.or.jp>